

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	岩高短歌～ワタシタチノウタ～
教科・領域等	国語科、HR 活動等
活動学年等	全校生徒・全職員
ねらい	学校生活の中で短歌を創作・鑑賞することにより以下のことに気付き、言語文化への理解を深め、言語感覚を磨くことで思考力や想像力を伸ばす一助とする。 ・今の自分のこころ、有り様 ・自然環境、地域環境の素晴らしさ、貴重さ ・人間のどうしようもない思い、有り様 ・高校生としての抒情性 ・岩出山高校とその諸行事への思い、愛着 ・周りの人の思い、有り様 ・ことばで表現する面白さ など

【実践内容報告】『岩高短歌～ワタシタチノウタ～』

<短歌集掲載数> 生徒:332首 教職員:69首 外部入賞作品:1首 参加人数:148名

【月間賞一覧】

- 4月のお題:「緑色・春のもの・ノート・LINE」
『風よ吹け桜を乗せて高く吹け春の証を虚空へ運べ』
- 5月のお題:「白色・岩出山・夢・野球・大会」
『夢破れ白旗あげたあの舞台次こそあげる我らの白星』
- 6月のお題:「黒色・花・雨・花」
『紫陽花の艶やかな色に魅せられて雨も忘れた登下校』【前期賞】
- 7、8月のお題:「青色・夏のもの・海・体育祭」
『暑いねと隣で笑う夏の色眩し過ぎてさまた暑くなる』
- 9月のお題:「黄色・氷・空・制服」
『下ばかり見ていた僕も気がついた真っ赤な空と止まらぬ時間』【中期賞】
- 10月のお題:「赤色・秋のもの・教室・政宗公まつり・(3年生のみ)就職・入試」
『赤色のお便りが舞うお知らせは秋の終わりと冬の始まり』
- 11月のお題:「紫色・冬のもの・岩高祭・マラソン大会」
『寒くなる心と体温めて染み渡る空にスープを一口』【後期賞】
- 12月のお題:「(2年生のみ)修学旅行」
『道頓堀写真撮りあいお友達言語の壁越え人の輪広がる』



岩高短歌 ～ワタシタチノウタ～

【校外コンクール入賞作品】

第21回宮城県高等学校文芸コンクール 短歌部門・入選

『焦がれども海の輝き手にできずならばと駆けて飛び込み抱く』

【岩高短歌集送付先】

管内小学校、管内各中学校、教育事務所、国立国会図書館ほか県内外図書館、本校を支える方々、岩出山各官公庁、各施設、旧職員、在校生出身中学校

【活動内容等】

活動	内容【場面】	重点指導事項	
		3つの視点 「かかわる」・「もとめる」・「はたす」	具体的能力
① 岩高短歌入門	○短歌集や過去の月間入賞一覧を読み、短歌について知る。 ○言葉の組み合わせで体験や感情を表現できることを知る。 【国語】	<かかわる> ○短歌を詠むことで自分の高校生活を形に残すことができること、全校での取り組みであることを学ぶ。 ○他者の創意工夫をこらした表現や言い回しを知ることで多様な感性に触れる。	【自己理解】 自己の持つ「ことば」と他者の作品の「ことば」の働きについて違いを感じたり共感したりする。
② 短歌を詠む	○日常で感じる季節の中での変化や学校行事、地域行事への参加について短歌を毎月二首詠む。 【国語、行事】	<もとめる> ○体験活動を元に短歌を詠むことで自己の感受性を歌に落とし込む。	【体験学習・振り返り】 自己の体験に基づき言葉選びをすることで明確なイメージを持って体験の振り返りをする。
③ 発表披露掲示	○月間賞一覧を発表・掲示する。月間優秀賞は同窓生により墨書していただき、額入りで校内掲示する。 【クラス・校内掲示】	<はたす> ○互いの短歌を鑑賞することで多様な感性に触れ、同時に自己の内省を深める。	【共感・受容力・自己肯定】 日常生活を共にする生徒の「ことば」から得られる日常美と感性を受け止め、他者の個性を受容し、自己受容感・自己肯定感を持つ。
③ 岩高短歌集製本・配布	○岩高短歌集「～ワタシタチノウタ～」の作成・製本・配布 →全生徒・全職員配布 →各小中学校、県内外の関係各所への寄贈・配布	<かかわる> ○それぞれの短歌が1つの作品を生み出すことで成果物として多くの人に読んでいただく。 <もとめる> ○さまざまな表現に触れることで日本語の美しさと多様な感性の素晴らしさを感じる。	【職業観・勤労観】 全生徒・全職員で取り組むことが大作を生むこと、それが伝統として引き継がれていることを経験する。1・2年生は次年度への取り組みが内発的動機付けされ、3年生は個人の取り組みが所属集団の力になることを実感する機会となる。

● 岩高短歌について

岩高短歌は本校で平成19年から始まり、現在18年目を迎えた取り組みである。生徒は毎月のお題を取り入れながら、毎月、短歌作成に取り組んでいる。短歌作成には Google Forms を活用することにより「いつでも」「どこでも」「すぐに」ができる環境が整っている。各月の優秀賞、第一席、第二席、第三席、優良賞、佳作、入選は校内・各クラスに掲示しており、月間優秀作品は同窓生の書道家に墨書していただき、校内に額入りで掲示している。また、月間優秀作品の中から各期の「前期賞」「中期賞」「後期賞」を全校集会で表彰している。

日々の学校生活の中で短歌作成に取り組み、生徒たちは短歌に対する寛容的、主体的な姿勢を醸成し、日常を言葉に落とし込む体験ができていく。また、それを学年の枠を越え、共有しながら次の短歌作成に挑んでいる。また、教職員も短歌作成に取り組み、生徒と共に個性あふれる短歌を数多く読んでいる。年度末には全校短歌集を300冊作り、生徒・職員に配付及び大崎市の公共施設や各中学校に寄贈している。

今年度新たな取り組みとして、10月1日(火)～14日(月)にかけて大崎市岩出山の「感覚ミュージアム」で、岩高短歌の展示を行った。展示期間中、およそ2000人の観覧者の方々に岩高短歌を見ていただくことができた。また、3月1日(土)に地元紙の「大崎タイムス」で岩高短歌の取り組みに関する記事が掲載された。



短歌提出用 QR コード



感覚ミュージアムでの展示の様子

